

## 実務者養成講座シラバス

科目	時間数	教育内容	到達目標
人間の尊厳と自立	5 時間	①人間の多面的な理解と尊厳 ②自立・自律の支援 ③人権と尊厳	○尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。
社会の理解 I	5 時間	①介護保険制度	○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。
社会の理解 II	30 時間	①生活と福祉 ②社会保障制度 ③障害者自立支援制度 ④介護実践に関連する諸制度	○家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。 ○障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○成年後見制度、生活保護制度、保険医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。
介護の基本 I	10 時間	①介護福祉士制度 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	○介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ○個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向

		③介護福祉士の倫理	けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。
介護の基本Ⅱ	20 時間	①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②介護実践における連携 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント	○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○チームアプローチにかかわる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ○介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。
コミュニケーション技術	20 時間	①介護におけるコミュニケーション ②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ③介護におけるチームのコミュニケーション	○利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ○援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。
生活支援技術Ⅰ	20 時間	①生活支援と I C F ②居住環境の整備と福祉用具の活用 ③介護技術の基本（移動・	○生活支援における I C F の意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。

		<p>移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助)</p>	<p>○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p> <p>○「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「家事援助」のそれぞれについて、介護技術の基本を修得している。</p>
生活支援技術Ⅱ	30 時間	<p>①利用者の心身の状況に応じた介護（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期)</p>	<p>○「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「睡眠」「終末期」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p>
介護課程Ⅰ	20 時間	<p>①介護過程の意義と目的 ②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ</p>	<p>○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</p> <p>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</p> <p>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</p>
介護課程Ⅱ	25 時間	<p>①介護過程の実践的展開 ・施設で暮らす高齢者の介護過程 ・在宅で暮らす高齢者の介護過程 ・障害のある人の介護過程</p>	<p>○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p>

<p>介護課程Ⅲ (スクーリング)</p>	<p>45 時間</p>	<p>①利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 ・多様な事例を設定し、介護過程を 展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価。 ②介護技術の評価 ・介護技術の原理原則の修得・実践 とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価。</p>	<p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>
<p>発達と老化の理解 I</p>	<p>10 時間</p>	<p>①老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響</p>	<p>○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p>
<p>発達と老化の理解 II</p>	<p>20 時間</p>	<p>①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多くみられる症状・疾病等</p>	<p>○発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>

認知症の理解 I	10 時間	①認知症ケアの理念と視点 ②認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③認知症の人とのかかわり・支援の基本	○認知症ケアの取組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○認知症の人やその家族に対するかかわり方の基本を理解している。
認知症の理解 II	20 時間	①医学的側面からみた認知症の理解 ②認知症の人や家族への支援の実際	○代表的な認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。
障害の理解 I	10 時間	①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本	○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害児・者やその家族に対するかかわり・支援の基本を理解している。

障害の理解Ⅱ	20 時間	<p>①医学的側面からみた障害の理解</p> <p>②障害児・者への支援の実際</p>	<p>○さまざまな障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</p> <p>○障害児・者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>
こころとからだのしくみⅠ	20 時間	<p>①介護に関連するからだのしくみ（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔）</p>	<p>○介護に関係したからだの構造や機能に関する基本的な知識を修得している。</p>
こころとからだのしくみⅡ	60 時間	<p>①人間の心理</p> <p>②人体の構造と機能</p> <p>③移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期における観察のポイント</p>	<p>○人間の基本的欲求に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>○学習・記憶等に関する基本的な知識を修得している。</p> <p>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。</p> <p>○介護に関係したからだのしくみ、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</p>
医療的ケア	50 時間	<p>①医療的ケア実施の基礎</p> <p>②喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</p>	<p>○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>○感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識に</p>

		③経管栄養（基礎的知識・実施手順）	ついて理解している。
医療的ケア （スクーリング）	10 時間	④演習	<p>○喀痰吸引のケアの実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ 5 回以上行い、評価を得る。</p> <p>○経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ 5 回以上行い、評価を得る。</p> <p>○救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1 回以上行う。</p>